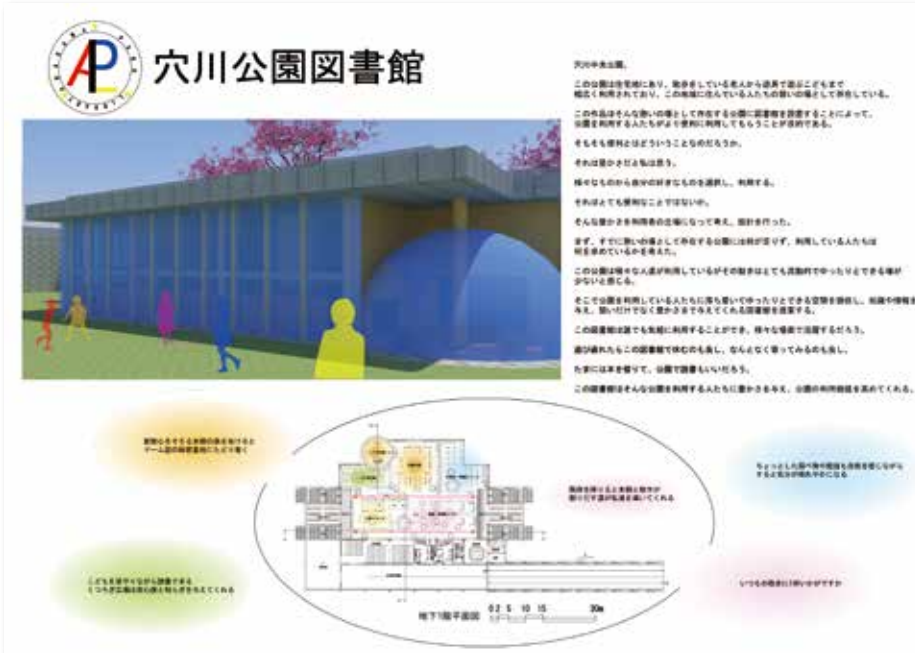


穴川公園図書館

金成 朋貴 (かねなり ともし)
千葉県立千葉工業高等学校 建設科



講評

視線の先の風景を変えずに大地を切り刻んで、豊かな空間をつくる、高校生とは思えない見事な発想である。「千葉県千葉市穴川中央公園」ここに、公園と図書館に関わる人々の多彩な物語が始まる。コンセプトは「ポエム」のようであり、繰り広げられるシーン（透視図）は「絵本」のようである。饒舌なのは、語り口だけではない。掘り込んだ図書館の存在をも配慮しつつ、屋外広場をあえて1m高くし、公園の風景も壊さないように、かつ、図書館の適切な階高を確保しつつ、「自然と知」の空気感を醸し出している。

ランドスケープと一体になった図書館、その図書館の内部機能も、豊かな気持ちになる空間構成として良くまとめられている。訪れた人々は、「便利さ」を「豊かさ」に変換して空間を楽しんでいる。なによりも作者自身が空間を楽しんで創っている。

あえてアドバイスをすれば、ゆるやかに回遊していくアプローチの道に対しても、ストーリー付けがあれば、もっと良くなったと思う。単なるプレイス（場所）から、THINK（考える）プレイスへ。引き続き、考えに考え抜いて、さらなる「ものづくり」と「ものがたり」が一体化した素敵な建築をつくってほしい。

(審査委員：鳴海 雅人)

穴川中央公園。
この公園は住宅地にあり、散歩をしている老人から遊具で遊ぶ子どもまで幅広く利用されており、この地域に住んでいる人たちの憩いの場として存在している。

この作品はそんな憩いの場として存在する公園に図書館を設置することによって、公園を利用する人たちがより便利に利用してもらうことが目的である。

そもそも便利とはどういうことなのだろうか。

それは豊かさだと私は思う。

様々なものから自分の好きなものを選び、利用する。

それはとても便利なことではないか。

そんな豊かさを利用者の立場になって考え、設計を行った。

まず、すでに憩いの場として存在する公園には何が足りず、利用している人たちは何を求めているかを考えた。

この公園は様々な人達が利用しているがその動きはととても流動的でゆったりとできる場が少ないと感じる。

そこで公園を利用している人たちに落ち着いてゆったりとできる空間を提供し、知識や情報を与え、憩いだけでなく豊かさまで与えてくれる図書館を提案する。

この図書館は誰でも気軽に利用することができ、様々な場面で活躍するだろう。遊び疲れたらこの図書館で休むのもよし、なんとなく寄ってみるのもよし。

たまには本を借りて、公園で読書もいだろう。

この図書館はそんな公園を利用する人たちに豊かさを与え、公園の利用価値を高めてくれる。